

令和5年2月28日

東川町長 松岡市郎 様

ひがしかわ価値創造協議会
会長 浜辺 啓

ひがしかわ価値創造計画について（答申）

ひがしかわ価値創造協議会設置要綱に基づき、文化等の活用による新たなまちの価値を創造し、まちの顔である中心市街地の活性化を図り、農業、商工業、観光業などの産業の価値を高めるための計画策定に向け、計5回の協議会における検討結果を下記の通り答申する。

記

これからの社会は、少子高齢化の深刻化が予測され、誰もが安心して安全に暮らせるまちの実現が望まれる。

また、本町は写真文化、大雪山文化、家具デザイン文化と共に歩み、後世に繋げるまちづくりを推進してきた中で、「共生、共和、共栄」の精神で新たな一步を踏み出すべく、文化等の活用による新たなまちの価値を創造し、まちの顔である中心市街地の活性化を図り、農業、商工業、観光業などの産業の価値を高めるため、未来を見据え、東川町を取り巻く様々な状況に対応した新たなビジョンが必要になっている。

こうした様々な環境変化を踏まえ、本協議会は町民や行政などの関係者が今後のまちのあるべき姿を共有し、必要となる機能や役割、方向性について検討する場として、

「東川らしさ」とは

『大雪山の恵みを受けて、豊かな暮らしを育み、

歴史を尊び、変化し続ける人々が集う町』

であるとの考え方のもと、開催された5回の協議会において、各委員からは多数の意見が示されるなど、闊達に検討を重ねた。

本計画のコンセプトは「誰もが自分らしく過ごすことのできる豊かな時間・空間・仲間があり、東川の暮らしの魅力を発信し、ひとや地域をつなぐ中心市街地を共に考え、創造する」としたうえで、達成目標については、「一人ひとりの個性が尊重され、官民が協働する開かれたまちづくり」、「豊かな自然の恵みが感じられる仕掛けづくり」、「移動しやすく、歩くこと等を楽しめる、回遊性の高い市街地づくり」、「町の産業の魅力を学ぶ・体験できる場、発信することができる場づくり」、「町の歴史と文化に触れる場・機会づくり」、「自然景観と調和する美しい街並みを育てる取組の継続」の6つの目標を設定し、実現に向けた63の具体策、中心市街地の将来像、付帯意見について整理を行い、別添の「ひがしかわ価値創造計画」を策定した。